

社会

健康社会への新たな価値創出	19
イノベーションを通じた医療課題解決	19
医療アクセスの向上 ーグローバルヘルス・UHC への取り組みー	22
責任ある製品・サービス・ソリューションの提供	31
品質と信頼の追求	31
サプライチェーンマネジメントの強化	40
魅力ある職場の実現	44
人材の育成 ーエンプロイジャーニーー	44
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	49
エンゲージメントの向上	52
健康経営の推進	57
社会貢献活動	62
社会貢献活動	62

Materiality

健康社会への新たな価値創出

背景

近年、世界的な人口増加と高齢化の進行により、医療需要は拡大し、内容も高度化・複雑化しており、医療インフラの整備や医療従事者の拡充・能力向上など喫緊の課題とされています。また、認知症など治療満足度が低い疾患の早期発見の必要性、患者の負担軽減と検査精度の向上も求められています。さらに、世界人口の半数以上が十分な医療サービスを受けられていない現実があり、医療アクセスの向上と医療格差の是正が求められています。

シスメックスは、医療・検査室の生産性向上、患者さんに寄り添う検査の進化、早期回復につながる先進的医療の提供、医療格差の是正など、さまざまな課題への取り組みを通じて、医療の発展と人々の健やかな暮らしの実現に貢献するとともに、持続的な成長を目指しています。

方針

グループ中期経営計画（2024 ～ 2026 年度）では、3つの成長戦略を掲げ、具体的施策の実行を推進します。既存事業の強化では、検査室の生産性を向上するヘマトロジー分野でのフラグシップモデルのグローバル展開、患者さんの負担軽減にも寄与するアルツハイマー病検査などを通じた免疫事業の拡大を目指します。新興国での事業拡大においては、市場のニーズにあわせた小型製品の開発、拡大する需要に応じた現地生産機能の強化を図ります。そして、新規事業の拡大では、患者さんの負担軽減や遠隔手術による医療のアクセス向上に寄与するメディカルロボット事業の拡大、一人ひとりに最適な医療を目指した再生細胞医療にも取り組みます。

▶シスメックスレポート（価値創造戦略）

体制

取締役社長と担当執行役員で構成されたグローバル戦略会議において、グループにおける中長期的な経営の方向性や重要な戦略や課題に関する討議・審議を行います。

▶シスメックスレポート（コーポレート・ガバナンス）

社会

健康社会への新たな価値創出

イノベーションを通じた医療課題解決

認知症への取り組み

現在、世界では5,500万人以上が認知症を患っており、世界的な長寿命化にともない、2050年にはその患者数が約1.4億人にのぼると言われています※。中でも認知症患者の60%から70%を占めるアルツハイマー病は、認知機能障害が現れる前から、「アミロイドベータ（以下Aβ）」というタンパク質の固まりが脳内に蓄積することが引き金となり発症すると考えられています。そのため、Aβを標的とする治療法では、早期診断・早期介入が有効性を高めると考えられていますが、現在、脳内のAβの蓄積状態を調べるために行われている脳画像検査（PET 検査）や脳脊髄液検査は、検査できる施設も限られ、また高額な費用や侵襲性の面で患者さんの負担が大きいことが課題となっています。

シスメックスはアルツハイマー病の診断における課題の解決に向け、より簡便かつ迅速に脳内のAβの蓄積状態を把握する技術の開発を進めてきました。2016年2月には、エーザイ株式会社と認知症領域に関する新たな診断薬創出に向けた非独占的包括契約を締結し、互いの技術・ナレッジを交流する中で、シスメックスでは認知症の早期診断や治療法の選択、治療効果のモニタリングが可能な次世代診断薬の創出に取り組んできました。

2023年6月には、自社の全自動免疫測定装置を用いて、血液中のAβを測定し、脳内のAβの蓄積状態の把握を補助する検査試薬を日本で発売しました。簡便かつ迅速な検査が可能で、脳内のAβの蓄積が疑われる患者さんに対し身体的・精神的・経済的負担を軽減する上、早期診断・早期の治療方針決定に貢献することが期待されます。

さらなる取り組みとして、アルツハイマー型認知症の発症前から認知機能障害に至るまでの各段階での病理変化の把握や、アルツハイマー型をはじめとするさまざまな認知症の鑑別に向けたマルチバイオマーカーパネルの開発も進めています。また、2025年6月には、アルツハイマー病治療薬の副作用リスク検査試薬の製造販売承認も取得しました。

今後も、認知症の予防および治療に対する新しい診断技術の創造に取り組み、患者さんとそのご家族のQOL向上に貢献します。

※出典：Global status report on the public health response to dementia. Geneva: World Health Organization; 2021.

より身近な認知症診断への挑戦

シスメックスの製品が、まずは日本で、脳内Aβの蓄積を血液で測定できる診断薬として認められたことは非常に大きな一歩です。検査があるからこそ、適切な治療につながる、治療の価値が高まる、ということをもまさに体現した事例ではないでしょうか。

今回の血中Aβ検査試薬を一つのモデルケースとし、今後もさまざまなパートナーとの協創によって、検査という立場から新たな医療の形を生み出していきたいと思っています。

詳細はこちらをご覧ください。

▶より身近な認知症診断への挑戦



吉田智一 取締役 常務執行役員 CTO

手術支援ロボット※1を通じた医療への貢献

近年、患者さんの身体的負担の低減やQOLの向上に加え、病巣の早期発見、医療従事者が安心して治療に集中できる環境の提供、また地域間の医療格差是正など提供される医療の均てん化という社会的課題の解決が求められています。外科手術では、患者さんの身体的負担軽減などを目的として行われる腹腔鏡手術において、医療従事者のよりの確な施術を支援する手術支援ロボットが活用されています。手術支援ロボット業界の市場規模※2は、年平均成長率（CAGR）13%で成長し、2030年にはグローバルで約2兆円に達すると予測されています。

シスメックスは、2021年に手術支援ロボットの国内市場導入を本格的に開始しました。現在では、泌尿器科、消化器外科、婦人科、呼吸器外科の各領域で保険適用となり、2025年3月末時点で累計9,400症例に達しています。本手術支援ロボットは人の腕のようになめらかに動くオペレーションアームや、フルハイビジョン3Dシステムで細部まで鮮やかに映し出される高精細画像など、医療の進化に貢献することを目指して開発されました。将来的には、医師の高度な手技をAIが学習し、術式のフィードバック機能や術中ナビゲーションによるアシスト機能、遠隔指導や遠隔トレーニングを可能とすることで、医療従事者の技術・知識向上に貢献することを目指しています。

2023年にはシンガポールと日本の間で、2025年にはフランスと日本の間で、手術支援ロボットシステムを用いた遠隔手術の実証実験を行い、いずれも成功しました。これにより近い将来、社会実装され、世界的な医療アクセス向上への貢献が期待されます。

今後も、検査・診断で培った技術・知見と手術支援ロボットとの融合により、手術前の検査から、手術中、手術後の検査・治療など、一人ひとりの患者さんのヘルスケアジャーニーがより良いものになるよう、サージカルインテリジェンスへの取り組みおよびデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進に取り組んでいきます。

※1 シスメックス株式会社と川崎重工業株式会社との合併会社である株式会社メディカロイドが開発

※2 市場規模は顧客購入価ベース。出典：TechSci Research、2030年はメディカロイド予測

受賞関連リンク

▶第6回日本医療研究開発大賞 厚生労働大臣賞受賞のおしらせ（medicaroid.com）

▶「MM 総研大賞 2023」大賞受賞のおしらせ（medicaroid.com）

▶「第11回 技術経営・イノベーション大賞」選考委員特別賞受賞のおしらせ（medicaroid.com）

▶第9回「ものづくり日本大賞」内閣総理大臣賞受賞のおしらせ（medicaroid.com）

薬剤耐性（AMR※¹）対策への貢献

感染症の治療のために使われる抗菌薬を不適切に使用すると、体内の細菌を十分に死滅させることができず、生き残った菌は薬剤耐性菌となることがあります。この薬剤耐性菌が増殖すると、抗菌薬が効きづらい状態となり、本来は軽症で回復できるはずの感染症でも治療が困難になります。薬剤耐性（AMR）対策を講じなければ、2050年には、AMRが原因で亡くなる人の数は年間1,000万人にのぼると予想※²されています。これは、がんによる死者数を上回ると推定される高い数字であり、世界保健機関（WHO）をはじめとするさまざまな団体によりAMRは世界全体で取り組むべき社会的課題として位置付けられています。

シスメックスは、ヘルスケアに携わる企業として、この課題解決に向けた新たな検査技術の確立と製品開発に取り組んでいます。2023年6月には、尿路感染症※³が疑われる患者さんの尿検体を用いて、細菌の有無および抗菌薬の有効性を判定する迅速薬剤感受性検査システムを欧州で発売開始しました。従来の手法では数日を要していた薬剤感受性検査（Antimicrobial Susceptibility Testing: AST）※⁴について、独自のマイクロ流体技術※⁵を用いて、測定開始後最短約30分での迅速判定を可能とすることで、クリニックなどプライマリケアにおける初診時の適正な抗菌薬の処方を支援します。

そして2024年、このシステムが英国最大の科学賞「Longitude Prize on AMR」を受賞しました。同賞は、医療現場での適切な抗菌薬の処方に必要とされる安価・迅速・正確かつ簡便なPOCT※⁶システムの開発を通じて、AMR対策へ最も貢献した開発者チームを奨励・支援するものです。2014年11月の同賞の開設以来、世界中から250以上の開発チームから応募が寄せられました。

シスメックスでは今後も、革新的な検査・診断技術の開発および提供を通じて、世界を脅かすAMR対策に貢献することを目指します。

- ※¹ 薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）：生物が自分に対してなんらかの作用をもった薬剤に対して抵抗性を持つことで、これらの薬剤が効かない、もしくは効きにくくなる現象。この薬剤耐性を獲得した細菌のことを薬剤耐性菌という。
- ※² 出典：Antimicrobial Resistance: Tackling a crisis for the health and wealth of nations. The Review on Antimicrobial Resistance, Chaired by Jim O’Neill.
- ※³ 尿路感染症：尿路（腎臓から尿の出口まで）に細菌が侵入し炎症が生じたものを尿路感染症という。膀胱では膀胱炎、腎臓では腎盂腎炎を引き起こす。日常診療において最も頻度が高いとされる細菌感染症の一つで、女性の約6割が生涯に一度は感染する※とされている。
- *出典：American Urological Association Website “Urinary Tract Infections in Adults”
<https://www.urologyhealth.org/urology-a-z/u/urinary-tract-infections-in-adults>（参照 2023-09-22）
- ※⁴ Antimicrobial Susceptibility Testing: AST：検体から検出された病原菌に対する各種抗菌薬の有効性を調べる検査。
- ※⁵ マイクロ流体技術：ナノメートルからマイクロメートル単位で加工した微細な流路により、液体中に複数存在する細菌を個別に捕捉し、微細流路内で単方向に菌を培養することで迅速な薬剤感受性検査を可能とする、Sysmex Astrego独自の技術を指す。
<https://www.sysmex-astrego.se/technology.html>
- ※⁶ ポイント・オブ・ケア・テスト（Point-of-Care Testing: POCT）：診療・看護など患者さんの近くで医療従事者が行う簡便な臨床検査法の総称であり、検査にかかる時間の短縮や患者さんに見えるという利点がある。

社会

医療アクセスの向上ーグローバルヘルス・UHCへの取り組みー

現在、地球規模で人々の健康に影響を与え、その解決に国際的な連携が必要とされるグローバルヘルス分野の課題が多く存在します。そのような課題の多くは、医療環境や医療制度など保健システムの未整備により、適切な医療を受けることが困難な地域の人々の健康を脅かしています。

シスメックスは、グローバルヘルス分野において、自社の事業領域である検査・診断における課題の解決に取り組んでいます。グローバルに事業を展開する企業が果たすべき責務の一つとして、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、新興国・開発途上国において質の高い検査を普及させることで、ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）※に貢献していきます。

※すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることを意味する。

マラリア・エリミネーションへの貢献

マラリアとは、世界保健機構（WHO）が定める世界三大感染症の一つで、熱帯・亜熱帯地域を中心に流行し、蚊を媒介に引き起こされる感染症です。マラリア検査には血液検体が用いられることから、シスメックスは、ヘマトロジー分野で培った技術を応用し、マラリア検査の標準化と効率化を支援する多項目自動血球分析装置を開発しました。マラリアは、早期診断・早期治療により死亡者数を減らせる疾患であり、診断に有用な検査結果を迅速かつ容易に提供できる本製品を臨床現場へ導入することで、マラリア・エリミネーションに貢献しています。

高精度・簡便なマラリア検査の実現

現在主流となっているマラリア検査は、簡易診断キットや顕微鏡が用いられますが、いずれも前処理を含めて約15分から30分の時間がかかるうえ、顕微鏡検査には熟練の技術を要することが課題でした。それに対して、当社の分析装置では、前処理作業をとまなうことなく、マラリア原虫などに感染した赤血球の有無とその比率を約1分※¹で高精度に自動測定することができます※²。加えて、通常のヘマトロジーで測定されるCBC8項目※³も同時に算出することにより、マラリア感染の有無のみならず、貧血状態などに関するデータを臨床現場に提供することが可能です。シスメックスはこの技術・製品を活用し、マラリア流行地域の臨床現場を支援しています。

また、シスメックス株式会社は、2016年よりマラリア対策に関係する研究機関・企業などにより構成されるマラリア・コンソーシアムの活動および運営に参画しています。アジア・アフリカにおいて産官学連携で進められるプロジェクト活動に、「検査・診断」分野で貢献しています。

2024年10月に開催された第11回日経・FT感染症会議では、マラリア蔓延地域での活動紹介とともに、第9回アフリカ開発会議（TICAD9）での発信への期待が述べられました。

- ※¹ 検体セットから結果の判定までの時間
- ※² 顕微鏡法によるマラリア診断を置き換えるものではありません。また、本結果のみで診断を行うことはできません。その他の臨床情報を用いた医師の総合的な判断により確定診断がなされます。
- ※³ 赤血球数（RBC）・白血球数（WBC）・ヘモグロビン（Hb）・ヘマトクリット値（Ht）・平均赤血球容積（MCV）・平均赤血球色素量（MCH）・平均赤血球色素濃度（MCHC）・血小板数（PLT）



ステークホルダーの声

ケニア医療従事者インタビュー

シスメックスの分析装置は非常に有用です。ある患者さんの血液サンプルは、スライド塗抹法と簡易検査キットでマラリア陰性と診断されましたが、医師たちはマラリアの可能性を疑い、より正確な診断を求めて私たちにサンプルを送りました。シスメックスの分析装置で測定したところ、非常にごく少量のマラリア寄生虫を検出することができ、この装置での診断優位性が確認されました。装置は、サンプルをセットしてから1分以内に正確な診断を行い、1マイクロリットルの血液中に含まれる寄生虫の数や、非常に微細な割合まで正確に測定できます。このような高度な診断技術への投資は、患者管理を大幅に向上させる価値があります。



「第11回ゼロマラリア賞」受賞

シスメックスは、マラリア診断装置の開発と普及によるマラリア・エリミネーションへの貢献に対して、特定非営利活動法人 Malaria No More Japan（マラリア・ノーモア・ジャパン）より「第11回ゼロマラリア賞」を受賞しました。同賞は、2014年よりマラリア・ノーモア・ジャパンが設置し、「2030年までにゼロマラリアを達成する」という国際社会の目標に寄与する活動に取り組む個人・団体を表彰するものです。



▶第11回ゼロマラリア賞はシスメックス株式会社へ 新規マラリア診断装置「多項目自動血球分析装置 XN-31」の開発と普及による貢献

WHO 認証検査システムによる新興国・開発途上国での HIV 対策支援

シスメックス パルテックは、HIV 感染者の診断や免疫状態のモニタリングの補助を目的とした CD4 陽性リンパ球検査システムを新興国や開発途上国において提供しています。本システムによる2011年からの累計テスト数は、3,000万テストにのぼります。このシステムは、血液中の CD4 陽性リンパ球の数と比率をわずか3分で測定し、低価格・小型・ポータブル式であることに加え、メンテナンスを簡略化するなど、簡便かつ迅速、安定的な検査をすべての方に平等に提供することを目指しています。

また、このシステムは WHO による事前認証（Prequalification）※を取得しており、医療資源が限定される国や地域への導入が促進され、新興国や開発途上国における HIV の診断や治療の質向上に貢献しています。



CD4 陽性リンパ球検査システム

※医薬品・検査・ワクチンなどのヘルスケア製品を資源の限られた国々で安心して使用できるようにするため、WHO が品質や安全性、効能などを担保していることを示す認証制度。2001年に HIV/AIDS 用の医薬品向けに制度が開始され、現在では新興国・開発途上国が物品調達時に参照するリストとして使われ、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（Global Fund）をはじめとした基金団体がこの事前承認を受けた製品を優先的に選択している。

保健システム強化への貢献

新興国・開発途上国では、保健医療課題解決に向けた医療従事者の能力開発（キャパシティビルディング）が求められています。シスメックスは、医療機関などへ製品・サービス&サポートを継続的に提供するとともに、医療従事者に対するトレーニングや学術情報を提供する機会を拡大しています。臨床検査の意義・臨床的価値の訴求、技術の普及などを通じて、疾患の早期発見・早期治療やより適切な診断・治療の提供に貢献しています。

医療従事者へのトレーニングの充実

シスメックスは、シスメックスアカデミーと呼ばれるトレーニングセンターを設置するとともに、オンライントレーニング Caresphere™ Academy を使ってグローバルで統一された教育コンテンツ・スキル管理ツールを提供し、販売代理店や医療従事者に向けた臨床的価値の教育や装置のメンテナンス研修を行っています。また、アフリカでは検査室の品質管理体制が国際基準 ISO 15189 に準拠するよう、独自に開発したメンターシップ・トレーニングを提供しています。

▶品質と信頼の追求

ガーナでのデジタルトランスフォーメーション（DX）の取り組み

シスメックス株式会社は、2023 年度、経済産業省の「アフリカ等市場活力取り込み事業実施可能性調査事業（AfDX）」を通じて、ガーナにおいて臨床検査室の外部精度管理をリアルタイムに実施できるアプリケーション（Caresphere™ XQC）を試験的に導入し、現地特有のニーズやサービス普及に向けた課題を調査しました。トライアル対象の 6 カ所の医療機関にトレーニングを行い、提供価値を体験いただくとともに、セミナーなどを通じて現地政府・業界団体・医療機関を対象とした臨床検査の品質向上に対する理解促進を図りました。

今後も、デジタルソリューションの活用とともに、当社が過去から継続的に実施してきたアジア諸国での外部精度管理普及支援のノウハウと、本事業における官民連携のスキームを活用し、同国の外部精度管理への理解促進やトレーニングの提供を通じた人材育成を図り、現地の医療水準向上に貢献していきます。



ガーナでのセミナーの様子

アジア各国における臨床検査の精度管理と標準化支援

シスメックスは、アジア各国において、臨床検査の品質・精度向上のための支援活動を行ってきました。

モンゴルにおいては、モンゴル保健省との協力のもと、全 5 分野（ヘマトロジー・生化学・免疫・血液凝固・尿）を対象とし、支援活動を継続しています。また、都市部の外部精度管理調査への参加が難しい施設に対して、地域単位での外部精度管理が実施できるよう、技術的・学術的ノウハウを提供し、実施支援を行うことで、モンゴルの医療水準の向上に貢献しています。カンボジアにおいても、ヘマトロジーの外部精度管理調査において同様の活動を展開し、臨床検査の質向上を支援しています。

中国では、2002 年よりヘマトロジーの国家標準器※として、当社の血球計数標準器が採用されており、これをもとに中国国内におけるすべての血球計数装置の登録検査や外部精度管理が行われています。また、血液検査・基準測定操作法の技術移管・技術交流、臨床検査国家ガイドラインの策定支援などの継続的な支援や、2019 年度からは最新型の標準器の貸与を行っており、中国におけるヘマトロジーの精度向上および検査の標準化に貢献しています。



モンゴルでのサーベイ報告会

※ヘマトロジーの国家標準の値（赤血球数、白血球数）を決めるための装置

▶学術活動

ステークホルダーの声

世界中どこでも、同じ医療を受けられるようにしたい。

2025 年 4 月、シスメックスの診断薬と検査機器双方の生産機能を備えた新たな生産拠点が、インドにおいて本格稼働を開始しました。このインド新生産拠点の稼働準備において、日本からの機器生産技術の移管に携わった社員が、Made in Japan の高品質の「ものづくり」の普及を通じた、世界の医療水準向上への想いと決意を語ります。



機器生産本部 垣本 明徳

詳細はこちらをご覧ください。

▶ Made in Japan の品質を世界中へ ～インド生産移管プロジェクト～

国際協力機構 JICA との官民連携プロジェクト

シスメックス株式会社は、JICA「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」の一環として、2018 年から 2022 年まで「尿検査自動化技術普及促進事業」を実施しました。ガーナの国立教育病院である Komfo Anokye Teaching Hospital（KATH）に尿検査を全自動化する尿検査総合搬送システムを導入し、現地の医療従事者に向けたセミナーやシンポジウムを開催しました。これらのセミナーやシンポジウムには延べ約 860 名が参加しました。また、本事業が SDGs 推進への取り組みとして評価され、「JICA-SDGs パートナー」※として認定されました。今後も尿検査自動化技術の臨床的価値や有用性を訴求し、ガーナをはじめとする開発途上国における質の高い臨床検査の普及に貢献していきます。

※ 2020 年 8 月～2022 年 2 月



JICA 技術普及促進事業の成果報告会



KATH に設置された尿検査総合搬送システム

在外日本大使館との官民連携

シスメックスは、2024 年、日本政府の ODA（政府開発援助）によるニジェール向け無償資金協力（食糧援助）の枠組みで積み立てられた見返り資金※を活用し、マラリア診断装置をニアメのイサカガゾビ産婦人科病院とタウアの地域病院センターに設置しました。あわせて、各施設の医療従事者に対してマラリア患者へのマラリア・貧血マネジメントに関するトレーニングを提供しました。この取り組みにより、現地のマラリア・貧血対策の強化および適切な治療機会の提供に貢献しています。

※被援助国政府が、日本の無償資金協力で調達した物資やサービスを現地で販売し、その販売代金を積み立てた資金。この資金は、被援助国政府と日本政府の使途に関する協議のうえ、被援助国の社会経済発展のため、教育、医療、インフラ整備などの開発プロジェクトに活用される。資金の管理は被援助国政府が行い、透明性を確保するために報告や監査が実施される。



イサカガゾビ産婦人科病院に設置されたマラリア診断装置

JICA 研修員の受入

シスメックス株式会社は、JICA と協力し、医療従事者の知識・スキル向上を目指して、1994 年より機器の保守・管理などに関するトレーニングを JICA 研修員に提供しています。これまでに 1,150 名以上の研修員に当社を訪問いただいています。

パートナーシップ

開発途上国では現在、経済発展の各段階における医療課題に応じた医療インフラの整備が求められており、将来的には市場としての成長が期待されています。正確な検査結果が適切な医療の入口であるため、シスメックスは保健省や医療機関などのパートナーとして関係構築を行い、各国・地域における質の高い検査を普及させるための制度づくり、検査環境の整備を進めています。また、国際協力や官民連携の枠組みの活用や、ほかの民間企業との連携を通じて新たな価値の共創に取り組んでいます。

異業種連携による共創プロジェクト ～「ユニバーサル『栄養』ヘルス・カバレッジ」への貢献～

ガーナでは、国民の死亡・障害を引き起こす最大の危険因子である栄養失調と、死因の1位※¹とされているマラリアが深刻な保健課題となっています。栄養失調は、胎児・乳幼児の身体と脳の成長を遅らせる发育阻害の要因となるうえ、マラリアの重症化リスクを高める貧血も引き起こします。さらに5歳未満の子どもや妊婦は、マラリアによる健康被害が特に大きい※²ため、栄養・貧血・マラリアの課題を同時に考える統合的なアプローチが求められています。

シスメックス株式会社は、2022 年から公益財団法人味の素ファンデーション、日本電気株式会社（NEC）と連携し、ガーナにおける母子の保健と栄養の改善のための共創プロジェクトを実施しました。このプロジェクトでは、味の素ファンデーションがガーナ政府保健機関と協業して進めていた母親の行動変容促進や栄養サプリメント推奨などの活動をさらに発展させ、質の高い検査と日本発の ICT を組み合わせることで、母子の健康と栄養の改善に貢献する仕組みを構築しました。当社は、医療機関にマラリア診断装置を設置し、医療従事者に対する人材育成・啓発活動などを行い、地域病院の機能強化に貢献しました。また、マラリア診断装置で分析されたデータを用いて、ともにプロジェクト地域の妊婦・母子・学童などを対象とした貧血・マラリアの有病率に関する共同研究をガーナ政府保健機関と実施しました。

※1 The Institute for Health Metrics and Evaluation (IHME)

<https://www.healthdata.org/ghana>

※2 5歳未満の子どもは、マラリアと栄養失調の両方に対して特に脆弱であり、栄養失調の子どもではマラリアがより重症化する可能性がある。また、マラリアは、妊婦の貧血・死亡、自然流産、死産、低出生体重児、新生児・乳児死亡など、母体と新生児の予後不良のリスクを高める。

[Nutrition and Malaria: Integrated approach for effective case management](#)



「グローバルヘルスを応援するビジネスリーダー有志一同」による取り組み

グローバルヘルス※分野に貢献する日本企業の経営者ら有志「グローバルヘルスを応援するビジネスリーダー有志一同」に、当社代表取締役会長の家次恒が参画しています。2022年8月には第8回アフリカ開発会議「TICAD8」の公式サイドイベントとして、特別ゲストのビル・ゲイツ氏とともに、有志企業11社が「グローバルヘルス・アクション」を発表しました。シスメックスは「検査・診断技術によるマラリアとの闘い」というタイトルでプレゼンテーションを行い、マラリアのない世界の実現に挑戦する意思を表明しました。また2023年3月には「第2回 グローバルヘルス・アカデミー」に登壇し、グローバルヘルス分野の官民学連携の重要性を発信しました。

2024年5月、本有志団体は、当時の外務大臣に対し、グローバルヘルスをグローバルサウス諸国との連携による外交政策上の戦略分野として位置付け、世界のワクチンギャップを改善することを目指した活動を行っている Gavi など、国際機関への資金拠出拡大とそれによる日本企業製品・サービスの調達拡大促進などを要請しました。

※地球規模課題としての保健医療分野、特に公衆衛生分野、感染症対策分野での支援および事業



▶グローバルヘルスを応援するビジネスリーダー有志一同

第9回アフリカ開発会議（TICAD9）に出展

シスメックスは2025年8月20日～22日に横浜で開催された第9回アフリカ開発会議（TICAD9）の併催事業 Japan Fair に出展しました。シスメックスはアフリカ54カ国中約50カ国で事業を展開しており、アフリカの医療課題である貧血、マラリアやHIVなどの感染症、がんなどの非感染性疾患など疾患別のアプローチや、医療人材育成、サービス&サポート体制などを紹介しました。

